

観光欲求の多重構造によるスポーツツーリズムの成立

1170477 松本 貴久美

高知工科大学マネジメント学部

1. 概要

本研究は、徳島県阿南市の地域活性化を目的としており、地域活性化とはそこに住んでいる方が幸せであると感じることと定義している。阿南市は「野球のまち」を推進していることから、野球をしている方がどのような魅力を求めているのかを明らかにした。また、野球という資源に、現存する観光資源を組み合わせることにより人を呼び込めるのかを考察した。最終的に野球のイベントと阿南市の魅力を組み合わせた観光パッケージのモデルを提案した。

研究成果としては、①阿南市の様な地方工業都市のイメージのある地域に求められる観光動機の解明、②家族を含めた観光動機を分析する為の新たな動機分類の提案、③新たな分類による分析でゆっくりする系を中心とする観光動機が重要であることが明らかになったことである。

2. 背景

筆者の出身地である徳島県阿南市は「野球のまち」を推進している。全国で初の「野球のまち推進課」が市役所に設置され、設置された平成 22 年には野球大会、四国アイランドリーグ公式戦・交流戦、観光ツアー、合宿、イベントでの合計宿泊延人員 2,049 人、合計日帰り延人員 10,421 人であった。平成 26 年には合計宿泊延人員 3,264 人、合計日帰り延人員 11,249 人とそれぞれ 1,000 人程増加した。(図-1) しかしながら、筆者が阿南市で育ってきた中で「野球のまち」ということを意識したことは殆どなかった。阿南市民 50 名にアンケートを実施した結果、阿南市が「野球のまち」を推進していることを知っている方が 34 人、どのような具体的な取り組みを行っているか知っている方が 11 人、観光効果が上がっていると思う方が 12 人ということが分かった。本研究において地域活性化とはそこに住んでいる方が幸せであると感じることと定義している為、阿南市民が「野球のまち」としてどのような取り組みを行っているのか知らない中で成果が上がったとしてもそれは野球で活性化されたとは言えないと考えた。どのような野球のイベント+阿南市の魅力があれば人を呼び込めるのか(阿南市民の幸せにつながるの

か)を明らかにし、その観光パッケージを提案することは今後応用していくことが出来るのではないかと期待した。

3. 先行研究

本研究と近い研究としては、早稲田大学大学院スポーツ科学研究科スポーツ科学専攻スポーツビジネスマネジメント研究領域 柴田恵里香氏の 2010 年度修士論文「スポーツツーリストにおけるデスティネーションイメージに関する研究～スポーツイベントの参加者に着目して～」があり、スポーツツーリストが抱くデスティネーションイメージ(目的地イメージ)には主に「感覚」「風土」「空間」「アクティビティ」「アクセス」の 5 つの要素が存在するということが明らかにされていた。本研究ではスポーツツーリストを野球をする人と絞りデスティネーションを徳島県阿南市とした。そしてデスティネーションイメージだけではなく動機を具体的に追究した。

4. 目的

地方都市の魅力の構造を明らかにし、イベント(野球)を用いて魅力の仕組みをどう活かしていくかを考える。草野球を愛する男性が家族で観光する場合の動機の発現に関するメカニズムを分析することで、草野球大会への参加・観戦することと開催地周辺の観光を結び付けた観光パッケージを提案し検証することで、野球を使った阿南市のスポーツツーリズムのモデルを作る。

5. 研究方法

阿南市役所「野球のまち推進課」にインタビューを実施し、阿南市としての取り組みから得た効果・成果を明らかにする。阿南市の現状を把握した上で、草野球をする方がどのような魅力のある地域を求めているのか、どのような動機があるのかを明らかにする為にウェブアンケート(魅力調査)を実施する。本調査の事前に予備アンケート調査を行う。結果を分析し、阿南市に求められる様な魅力のある資源を考察し、野球のイベントと組み合わせた観光パッケージを提案する。その観光パッケージを仮想市場(CVM)法を使って評価する。

(図-1 野球のまち推進事業 年次別実施状況 「野球のまち推進課」提供資料より筆者作成)

年度	野球大会の開催				アイランドリーグ		観光ツアー					合宿			イベント			合計	
	県外から参加		県内から参加		試合数	観客数	県外チーム			県内から参加		チーム数(延)	実人員	延人員	事業名	宿泊人員延	入場者数	宿泊延人員	日帰り延人員
	チーム数	宿泊延人員	チーム数	参加延人員			チーム数	宿泊実人員	宿泊延人員	チーム数	参加延人員								
19					6	9,691													
20	17	410	44	1,120	23	22,866													
21	38	800	71	1,470	21	13,771	4	110	110	8	133	2	110	710					
22	48	1,068	75	1,400	14	6,748	11	147	178	11	224	3	149	803				2,049	10,421
23	60	2,630	51	1,720	12	3,035	9	118	151	13	165	4	161	901					
24	39	753	61	2,737	6	2,377	15	137	207	12	193	2	95	620					
25	68	1,675	54	1,293	6	1,837	20	280	280	17	263	4	184	1416					
26	48	1,467	62	2,105	8	2,168	19	308	326	13	212	5	205	1441					
27																			

6. 地方都市（阿南市）の観光の現状分析

6-1 阿南市役所「野球のまち推進課」田上重之さんへのインタビュー

阿南市役所「野球のまち推進課」の田上重之さんに「野球という資源の活かし方」というテーマでインタビューを実施した。そこで大きく以下の3つのことが分かった。

1つ目は「野球のまち推進課」の誕生についてである。全国で唯一の「産業部 野球のまち推進課」は平成22年4月1日に設置された。阿南市は以前から野球が盛んであり、平成19年5月に本格的な野球場である「アグリあなんスタジアム」がオープンし、独立リーグの徳島インディゴソックスのホームグラウンドと位置づけられたこと等から野球を通じた地域振興や活性化に努めている。初めは、組織がすべきであって市役所がすべきではないという声もあり、野球が一般的すぎる為に役所のものとするのには批判が多くあったそうだ。しかし、それを観光（スポーツツーリズム）とする為に国が考える前にまずは3年取り組んでみようというトップの判断で決定した。そして、構想に3年を要し設立には1年もかからなかったそうだ。

2つ目は「草野球の聖地」の狙いと強みである。「野球をするなら阿南へ行こう！」をキャッチフレーズに「草野球の聖地」を目指している。高校野球の聖地と言えば甲子園という様な草野球の聖地は未だ存在していない。その聖地を阿南市と認識して頂くことを目指している。阿南市は日帰りではなく、泊まって頂ける観光を理想としている。その為、市からルールを提示する。例えば、勝っても負けても2日間試合があるという様に泊まらなければいけない日程としたり、バッテリーを9人から13人に変更する等野球のルールを変えてしまう。それは草野球にしか出来ないことである。

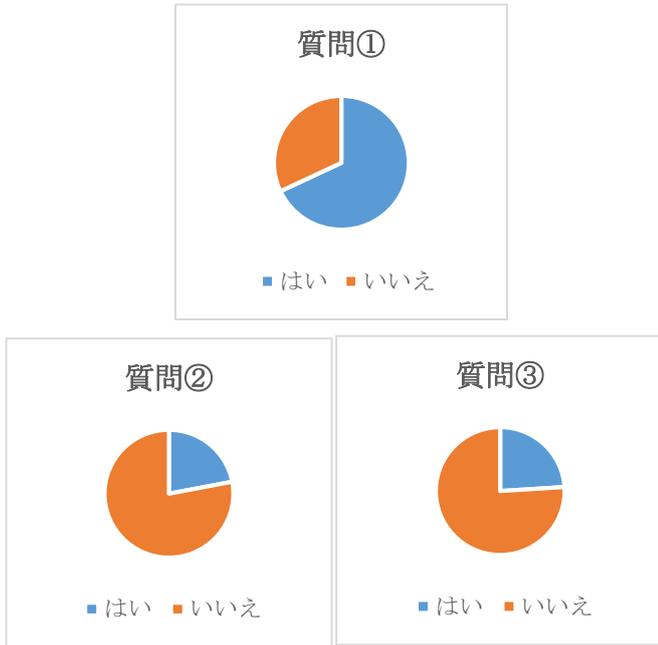
3つ目は地域との繋がりについてである。有名なサッカーチームの本拠地となっている地域の議員さんが阿南市に視察に訪れたそうだ。視察に訪れた理由は、その地域には問題があったからである。それは、サポーター（観客・応援団）が日帰りだけで泊まってくれない点と、試合後に残るのはゴミと試合に負けた際のサポーター同士の喧嘩であるという2点である。喧嘩が起こると近所の方は怖がり、これでは地域の方の為になっていないということであった。地域の方の幸せを考え、振興していくことは本研究においてとても重要なことである。また、阿南市の試合ではAB060という地元の60歳以上の女性で結成されたチアリーディングチームが応援をしてくれる。このチームは、協力したいということで市とは関係のないところで結成された。現在60名を超える方が所属している。それほど阿南市の為に協力したいと思っている地域の方がいるということである。

6-2 インタビュー結果の分析

インタビューの結果、阿南市はこれまでの取り組みから成果は上々であるということであった。図-1を見ても合計宿泊延人員、合計日帰り延人員共に増加している。確かに、数字だけでみると成果は上がっているかもしれない。

本研究の地域活性化の定義から、阿南市民の「野球のまち」に対するイメージと「野球のまち」推進がどれほど市民に浸透しているのかを調査する為に50名を対象にアンケートを実施した。質問内容は、①阿南市が「野球のまち」を推進していることを知っていますか？②具体的にどのような取り組みをしているか知っていますか？③実際に阿南市は推進事業として、野球観光ツアー、各野球大会の開催等を企画・実施していますが、観光効果が上がっていると思いますか？の以上3問に対し「はい」又は「いいえ」で回答して頂いた。その結果、質問①では「はい」34人、「いいえ」16人。

質問②では「はい」11人、「いいえ」39人。質問③では「はい」12人、「いいえ」38人であった。(図-2)



(図-2 阿南市民 50 名に対するアンケート結果の割合)

以上の結果から、多くの阿南市民が「野球のまち」やその取り組みを認識出来ていないことが分かり、本研究における地域活性化の定義からは、その中で上がった成果から阿南市が野球で活性されているとは言えない。

6-3 阿南市の観光資源の分析

阿南市には天然芝と黒土のグラウンド「JA アグリあなんスタジアム」(図-3・4・5) という設備の充実した球場がある。本研究では、このスタジアムを使用した「草野球の甲子園」を企画し、周辺の阿南市の観光資源と組み合わせるような観光パッケージを考察していく。阿南市の春夏秋冬で見る観光資源・スポットとして存在しているのは、春には岩脇公園の桜・桜まつり、阿南の加茂谷鯉まつり、夏には淡島海水浴場、北の脇海水浴場、阿南の夏まつり、秋には海正八幡神社例大祭(橘のケンカだんじりまつり)、紅葉、冬には牛岐城趾公園が LED で美しく彩られる。また、1 年を通して楽しむことが出来る観光資源・スポットとして、冬の観光スポットにも挙げた牛岐城趾公園は夜には LED でライトアップされており“恋人の聖地”としても認定されている。その他にも、四国霊場第 21 番札所の太龍寺、第 22 番札所の平等寺、蒲生田岬、牛尾の滝、阿南市科学センター、お松大権現等がある。阿南市の特徴として、

自然の資源が多くあり、夏以外の観光資源・スポットが少ないということが挙げられる。

6-4 阿南市の観光政策と課題

阿南市が現在推進している野球観光ツアーは、JA アグリあなんスタジアムにて 2 試合実施予定で、対戦チーム等の紹介調整があり、試合の方法・時間帯等は要相談の 1 泊 2 日、1 人あたり 13,000 円からのツアーである。この費用には、試合、歓迎交流会、宿泊費(夕食・朝食)も含まれるが、歓迎交流会の飲物代、昼食代(弁当代)は別途となる。詳細として、歓迎交流会は夕食時に参加チーム・対戦チーム等で地元特産物を活かした料理と阿波踊りを一緒に楽しんで頂く。参加チームの宿泊先は、事務局を通じ調整し、洋室・和室または大部屋可能となっている。そして、スケジュールに応じて観光地等の紹介もしている。

また、阿南市観光協会お奨め観光ルートがあり、日帰りコース・1 泊 2 日コース・広域コースに分類され、日帰りコースではお花見か歴史・文化から選択出来るようになっている。1 泊 2 日コースでは、阿南市にある島の伊島、光とエネルギーについて楽しみながら知るコースを選択することが出来る。広域コースは、阿南市と室戸市と安芸市という県をまたいだコースである。この 3 つの市は連携して、広域観光に取り組んでいる。

草野球の全国大会は既に存在している。その上、決勝戦等はプロの球場を利用している。野球だけであれば他の大会の魅力に惹かれる可能性が高い。その為、阿南市の「草野球の甲子園」では周辺の観光資源と融合させ、全体として他の大会に負けない様な魅力のある大会としたい。



(図-3 JA アグリあなんスタジアムの位置を示す 阿南市 桑野町谷 34-1)



(図-4 JA アグリあなんスタジアム写真)

- ・両翼：100.0m センター：122.0m
- ・グラウンド面積：13,600 平方メートル
- ・夜間照明：6 基
- ・舗装：内野 黒土混合土舗装 外野 天然芝舗装
- ・収容人数：約 5,000 人<内野 1,375 人(内身障者 12 人) 外野 3,625 人>
- ・スコアボード：磁気反転式(幅 21m 高さ 7m)
- ・付属施設：バックスクリーン(幅 21m 高さ 5, 6.5m) 室内ピッチング場 場内放送設備

(図-5 JA アグリあなんスタジアム概要)

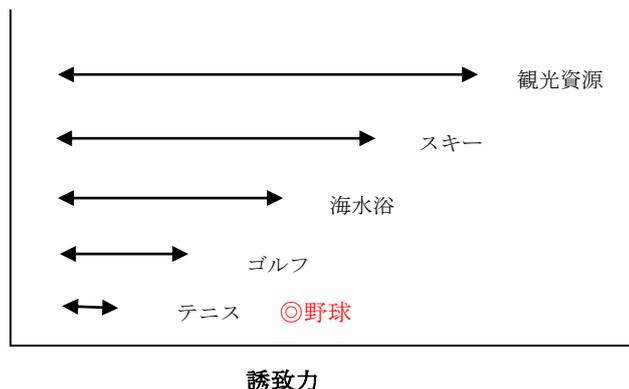
7. 観光学の理論とスポーツツーリズム

岡本伸之(編)の「観光学入門」によると、観光学は観光とそれに関わる諸事象を研究対象とする学問であると記されていた。本研究では「観光学入門」の、旅行形態、旅行目的、行き先の組み合わせにより影響される「観光行動の類型と観光者心理」、観光施設そのものの利用が観光の目的となるような施設の観光資源の誘引力と観光施設そのものの誘引力との関係を表した「観光施設の機能」、観光資源の代替性と誘致力の関係の「観光地と観光資源」の理論を使う。

野球という観光資源で言えば、野球自体の代替性があり、テニスと同じ程の位置となる。(図-6) 代替性がなく、誘致力の大きい観光資源と如何に結び付け、全体としての魅力を大きくするかが阿南市のスポーツツーリズム発展にとって重要である。

以上の観光学の理論を用い、求められる阿南市の観光資源を考察し、観光パッケージを追究した。

自然依存度(なし↑代替性↓あり)



(図-6 観光資源・施設と誘致力の関係)

8. ウェブアンケートによる阿南市観光の魅力調査

8-1 アンケートの実施内容

このアンケートは、阿南市が誰にどのような魅力があるのか等阿南市の魅力の構造を解明する為に、全国を対象に草野球を一定の頻度で実施されている家族(妻、子ども)のいる男性 100 名に実施した。調査期間は、平成 28 年 5 月上旬である。質問内容は以下の 5 問である。なお、Q1 の質問については単一選択式、Q2・4 の質問については選択式・複数選択可能とした。

Q1. 出身、現居住地

- ①阿南市出身 ②徳島県出身(阿南市除く) ③上記以外

Q2. 家族で旅行する際に何を重視しますか?

- ①宿泊施設 ②食事 ③商業施設 ④アミューズメントパーク ⑤その他

Q3. 家族で観光するならどのような場所に行きたいですか?

また、どのようなことがしたいか具体的にあればお願いします。

Q4. 徳島県阿南市といえば何か思いつくこと、ものはありますか?

- ①光のまち ②野球のまち ③工業地域 ④その他 ⑤なし

Q5. 阿南市の概要を読んで、このような阿南市において、どのような魅力があれば訪れたいと思いますか?(Q1 で「阿南市出身」と回答した方はどのような魅力のあるところに訪れたいと思いますか?)

8-2 アンケート結果の概要

アンケートの結果は以下の通りとなった。Q3 と Q5 について

てはそれぞれ 100 通りの回答を頂いたので、後に詳しく見ていく。

Q1. 出身地：①2人 ②1人 ③97人



(図-7 アンケート回答者 100 名の現居住地を示す)

Q2. ①78人 ②66人 ③17人 ④24人 ⑤2人

⑤ (景色、特になし)

Q4. ①14人 ②20人 ③8人 ④2人 ⑤68人

④ (阿南陸軍大臣、阿南かどうか分からないが昔の池田)

8-3 阿南市の観光資源に対する反応分析

Q4での結果のように、阿南市に対してのイメージがない方が非常に多かった。阿南市は「野球のまち」と「光のまち」を推進しているが、「野球のまち」で2割、「光のまち」のイメージを持っている方は1.5割もおらず、阿南市に対する認知度の低さが表れる結果となった。Q5での阿南市にどのような魅力があれば訪れたいかという問いにも、Q3の場所を限定せずに家族で観光する場合に訪れたい場所に比べて「なし」という回答が圧倒的に多くあった。Q5では阿南市の観光資源や特産品、その他情報を記載した概要を読んで頂いた上で回答をお願いした為、そのままの阿南市では魅力を感じない方が多いことが分かる。そこで野球をしている方が阿南市に求める魅力をより詳しく明らかにする為に、Q3の家族で観光する際にどのような場所に行きたいのか(以下、家族観光)とQ5の阿南市にあれば行きたい魅力(以下、阿南観光)の回答を比較分析をした。なお、分析方法の特性により研究者である筆者の恣意性を排除できない点を留意して頂きたい。

9. 阿南市の魅力調査分析

9-1 観光行動類型と「組み合わせ」の関係

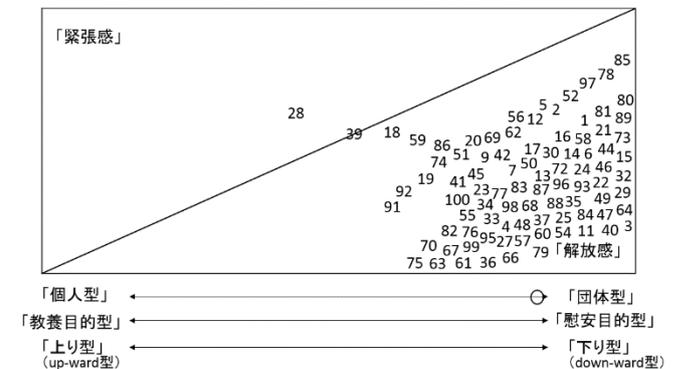
1つ目の分類は観光行動類型と「組み合わせ」の関係である。

岡本伸之(編)の「観光学入門」によると、個人での旅行か団体での旅行かという旅行形態の違いで見ると、「個人型」では周りに言葉の通じる人がいない、自分自身に決定権がある等、行動責任が大きくなる点から緊張感も強くなる。一方、「団体型」では周りに頼れる人がいる、言葉が通じる人がいるといった点から解放感が強くなる。旅行目的の違いから見ると、「教養目的型」は学ぶこと、知ることを目的としている為、緊張感が強くなる傾向がある。それに対して、「慰安目的型」は楽しむことを目的としている為、解放感が強くなる。行き先の違いでは、「観光学入門」によると、行き先とは特定の地名や国名ではなく、観光者からみて社会的・文化的に優れているところ(いわゆる「先進地域・国」)であるか、社会的・文化的に劣っているところ(いわゆる「後進地域・国」)であるかという主観的判断を意味しているようだ。一般に前者は「上り型」、後者は「下り型」と称されるが、前者ではその地域・国の価値基準を尊重し、恥をかかないことを意識して慎重に行動する傾向があるのに対して、後者では自分の考えに基づいて行動し、恥の意識が薄いことが指摘されている。組み合わせとの関係では、「上り型」は緊張感が、「下り型」は解放感が、それぞれより強くなる傾向にあると記されていた。

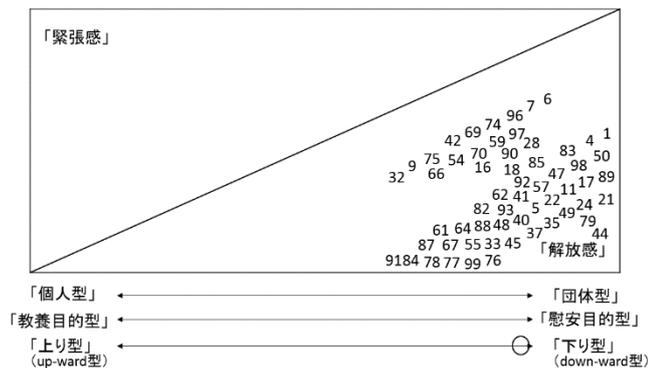
この分類では、家族観光は「団体型」、阿南観光は「下り型」と固定した。

家族観光では、「慰安目的型」の「下り型」が多く、緊張感よりも解放感を求める傾向があった。(図-8)

阿南観光では、家族観光と比べて、解放感をより求める傾向があるという結果になった。(図-9)これは、阿南市の情報を提供したことにより、自然が多く工業都市等のイメージだけではないことを知って頂いたことが影響しているのはいかと推測出来る。



(図-8 観光行動類型と「組み合わせ」の関係・家族観光)



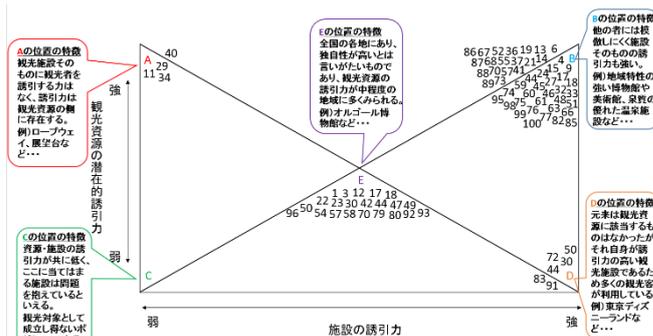
(図-9 観光行動類型と「組み合わせ」の関係・阿南観光)

9-2 観光対象の誘引力によるプロット

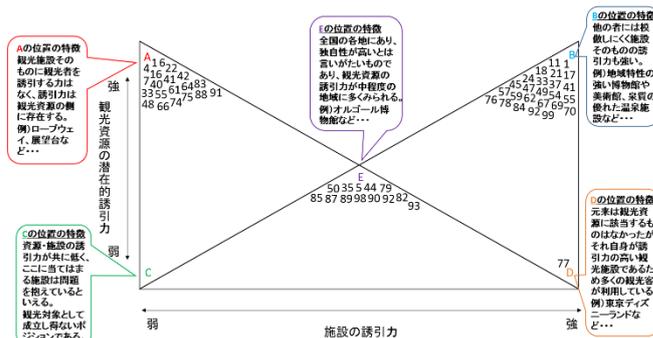
2 つ目は、観光資源の潜在的誘引力と施設の誘引力で分類したものである。岡本伸之(編)の「観光学入門」によると、観光施設そのものに観光者を誘引する力があるわけではなく、誘引力が観光資源の側に存在するもの(ロープウェイ、展望台等)は、資源の潜在的誘引力が強く、施設自身の誘引力が弱い位置(A)にプロットできる。次に、(B)の位置には他の者には模倣しにくい、地域特性の強い博物館や美術館、あるいは、泉質の優れた温泉施設などが当てはまる。(C)は、資源の誘引力が低く、施設の誘引力も低いものであり、これに当てはまる施設は問題を抱えており、観光対象として成立しない。そして、(D)に当てはまるのが、東京ディズニーランドのような施設である。元々、その地に観光資源に相応するものがなかったが、それ自身が誘引力の強い施設である為、多くの観光客が利用している。(E)に該当する観光施設は、「オルゴール博物館」の様に日本全国の各地にあり、独自性が高いとは言い難いものである。このような施設は、観光資源の誘引力が中程度の地域に多くみられると記されていた。

家族観光においては観光資源も施設の魅力も両方求める B の集団が最も多く、次の集団としては、全国の各地にあり、独自性が高いとは言い難い観光資源の誘引力が中程度の E の集団が多かった。(図-10)

阿南市を想定した場合においては、B の集団が最も多くなったことは変わらなかったが、次の集団が A という結果になり、D の集団が殆ど見られないという結果になった。(図-11)これは、阿南市の情報を提供したことで、阿南市の立地やテーマパークといった遊ぶ施設がないことが原因となっているのではないかと推測出来る。



(図-10 観光対象の誘引力によるプロット・家族観光)



(図-11 観光対象の誘引力によるプロット・阿南観光)

9-3 旅行者モチベーションの「内容」(動機)の概念分類

3 つ目は田中洋(著)の「消費者行動論体系」の旅行者の動機で分類したものである。家族観光においては、娯楽追及が最も多い結果となった。(図-12)一般的に観光客は、ほぼまんべんなく求めているのに対して、阿南観光では歴史・文化や関係を深める目的の知識増進や関係強化、旅行後に経験を誇示するといった自己拡大が殆ど見られなく、娯楽追及と緊張解消に偏る傾向があった。(図-13)これは友人と一緒に楽しむような娯楽施設や積極的にPRすべき歴史・文化的要素が阿南市にないということが原因と考えられる。

・娯楽追及行動	1・6・9・11・12・17・18・19・20・22・23・28・30・33・34・37・42・44・45・47・49・50・51・54・55・56・57・58・59・62・64・66・68・69・70・72・74・77・79・80・81・82・83・84・85・86・87・88・91・92・93・96・98・100
・緊張解消行動	3・4・11・13・14・15・17・21・24・25・27・29・33・34・35・36・37・40・41・44・45・46・48・52・55・57・60・61・63・64・66・67・73・75・76・77・84・88・89・93・95・98・99・100
・関係強化行動	2・5・20・30・41・69・70・81・97
・自己拡大行動	17・18・32・45・51・59
・知識増進行動	18・52・78

(図-12 旅行者モチベーションの「内容」・家族観光)

・娯楽追及行動	1・5・17・18・22・24・28・33・41・44・45・49・50・54・55・59・62・69・70・77・78・79・82・84・87・89・90・92・93・96・98
・緊張解消行動	4・6・11・16・17・21・35・37・40・41・47・48・55・57・61・64・66・67・75・76・83・85・88・91・92・99
・関係強化行動	44・79・97
・自己拡大行動	
・知識増進行動	

(図-13 旅行者モチベーションの「内容」・阿南観光)

9-4 松本分類（動機の求める具体的内容）

4 つ目の分類は、動機に関してより詳しく見ていく為に、動機が求める具体的内容をさらに細かく分析した。これを松本分類と名付けることにする。松本分類では、家族と一緒に観光する男性の動機の類型化を考えた。既存の理論では、家族を持った男性が家族に気遣いすることで生まれる欲求（二次的欲求）、家族の間接的な動機等に配慮した欲求が具体的に確認出来ない為である。調査した結果では、この分類の家族観光においては、圧倒的にゆっくりする系が多い結果となった。(図-14)

阿南観光では、自然を満喫する系、美味しいものを食べる系、ゆっくりする系、良い景色系、交通の便系が上位 5 つとなった。(図-15) この上位 3 つは定番のものである。遊ぶ系、名所系、歴史を知る系がないということは先程の旅行者モチベーションの内容での分類と同様で、阿南市には求められていないということが分かる。交通の便系を求める方が増加しているのは 2 つ目の分類と同様の結果となった。

・ゆっくりする系	4・13・14・15・18・21・24・25・27・33・35・36・37・41・44・46・48・52・55・57・60・61・63・67・73・75・76・77・88・89・93・95・98・99	・具体的なまち系	7・16・19・39・64・74・84・92
・美味しいものを食べる系	6・18・19・23・30・33・37・55・68・70・74・78・87・88・98・100	・良い景色系	3・11・17・34・45・88
・自然を満喫する系	1・3・9・11・17・29・32・40・47・54・57・60・64・66	・行き当たりばったり系	10・38
・遊ぶ系	30・44・50・58・66・72・77・81・83・91・92・93・96	・歴史を知る系	18・52
・家族が楽しめる系	2・5・20・28・30・41・69・70・93・81・97	・観戦系	50・70
・体を動かす系	1・12・17・22・32・44・49・79・80・82	・お得な買い物系	42
・名所系	9・17・45・51・56・59・70・85・86・100	・交通の便系	

(図-14 動機の求める具体的内容 松本分類・家族観光)

・ゆっくりする系	11・17・21・35・37・41・47・57・67・76・99	・具体的なまち系	16
・美味しいものを食べる系	1・17・18・24・33・45・49・55・62・70・78・84・92	・良い景色系	17・22・33・45・48・61・85・86・92
・自然を満喫する系	4・5・40・48・54・55・64・83・87・88・89・91・93・98	・行き当たりばったり系	38
・遊ぶ系	44・50・77	・歴史を知る系	
・家族が楽しめる系	44・79・97	・観戦系	18・28・50・90
・体を動かす系	28・82・98	・お得な買い物系	7・42・66・74
・名所系	59	・交通の便系	1・6・41・66・75

(図-15 動機の求める具体的内容 松本分類・阿南観光)

9-5 スポーツツーリズムの構造分析

4 つの分類で分析した結果を簡単にまとめると、野球をする男性が阿南観光において求めるものとして、より解放感を求め、施設については家族観光と同様で施設の誘引力・資源の潜在的誘引力が共に強いもの、観光動機については知識増進や関係強化に繋がる資源がない為に娯楽追及、緊張解消に集中するべきであると考え。一方で具体的な内容（松本分類）を見てみると、家族観光では圧倒的にゆっくりする系であったのに対して、阿南観光においては自然を満喫する系、美味しいものを食べる系、ゆっくりする系の 3 つがほぼイコールになっており、違いが出てきた。これは阿南市にこういう所があるということを知ってもらった為に分散したと推測する。他に考えられる原因として、回答者にとって阿南市の場合は野球がメインであるからなのか、それとも、家族のことを考えた回答も見受けられた為、家族のことを気遣って食や自然が増えたということが考えられる。そこで、回答者に気遣い欲求・二次的欲求があるのではないかとすることを新しく提案する。

10. スポーツツーリズムのパッケージ提案と評価

10-1 スポーツツーリズム案

分析の結果から、阿南市の観光資源として、解放感を持って、施設・資源の両方の誘引力を確保し、娯楽追及と緊張解消に特化し、自然を満喫する系・美味しいものを食べる系・ゆっくりする系の 3 つをどう観光に取り入れていくかということを観光設計する上で考えた。以上の 4 つの結論を掛け合わせた時にプラン A・B の観光パッケージが設計出来た。4 つの結論を踏まえて、阿南市に該当する観光資源・施設があるのかを考えた結果、プラン A とプラン B の 2 パターンを提案した。(図-16・17)プラン A とプラン B の大きな違いは、4 日

目の日程が海水浴か農業体験又はお花の寄せ植え体験かである。松本分類において分かった阿南観光における動機としては赤文字のものが大事である。(図-15) これを満たす阿南市の資源として、温泉、選択自由の宿泊施設でゆっくりする系を満たし、あなん井で美味しいものを食べる系を満たし、海水浴で自然を満喫する系、さらに良い景色系、海を見ながらの昼食で美味しいものを食べる系・ゆっくりする系も満たすことが出来る。農業体験では自然を満喫する系・美味しいものを食べる系が満たされる。さらに、今回提案したプランでは、送迎ありやレンタカーの手配等も考慮した為、交通の便系も満たすことが出来るプランとなった。また、設定時期は阿南市の夏祭りと合わせている為、阿波踊り、花火といった観光資源を自由な時間に満喫出来る。その他の阿南市にある観光スポットにも自由に回ることが可能な為、そこで赤文字のニーズ(動機)により厚く応えられると考察した。加えて、全体的により解放感があり、阿南市に求められていない自己拡大・知識増進を避けたプランを設計した。

設定として、下記のことを予めこちらで定めた。

設定：7月の最終金・土・日・月に草野球の甲子園が徳島県阿南市のJAアグリあなんスタジアムで開催され、あなたは家族と一緒に訪れることになりました。家族4人の3泊4日です。

1日目	宿泊地集合	- お松大権現にて必勝祈願(送迎あり)	- 自由行動
	14:00	15:30	17:15
2日目・3日目	草野球の甲子園(昼食はお好みの“あなん井”)(お父さん:試合、ご家族:応援)		
	10:00-17:00		
4日目	海水浴	- 昼食(海にて)	- 温泉(大和の郷) - 現地解散
	10:00	12:00	13:30 15:00

(図-16 提案プランA)

1日目	宿泊地集合	- お松大権現にて必勝祈願(送迎あり)	- 自由行動
	14:00	15:30	17:15
2日目・3日目	草野球の甲子園(昼食はお好みの“あなん井”)(お父さん:試合、ご家族:応援)		
	10:00-17:00		
4日目	農業体験 or お花の寄せ植え体験	- 昼食(収穫したものを調理)	- 温泉(大和の郷) - 現地解散
	10:00	12:00	13:30 15:00

(図-17 提案プランB)

10-2 ウェブアンケート概要

このアンケートの目的は、第8章で実施したアンケートの結果から阿南市に求められているものを分析し、それを組み入れて提案したプランAとプランBのどちらに魅力を感じる

方が多く、その観光パッケージにどれくらいの魅力があるのかを評価して頂くことである。全国を対象に前回(第8章)アンケートに回答されていない、草野球を一定の頻度で実施されている家族(妻、子ども)のいる男性100名に実施した。調査期間は、平成29年1月下旬~である。プランA・Bそれぞれに日程として組み込まれている各施設、観光スポット等の説明・写真、細かい設定も記載した資料を読んで頂いてから回答をお願いした。質問内容は次の2問である。

Q1. A、Bのプランか、Cを下記から選んで、その理由も教えてください。

- ①A ②B ③C

Q2. Q1でAまたはBを選択された方はその観光プランにいくらかまで支払えますか?(この支払額は家族4人分の3泊4日の費用[朝・夕食付き、宿泊費込み]です。)

- ①31万円以上 ②30万円 ③25万円 ④20万円 ⑤15万円
⑥12万円 ⑦10万円 ⑧8万円 ⑨7万円 ⑩6万円
⑪5万円 ⑫4万円 ⑬4万円未満

10-3 提案内容の仮想市場法による分析結果

結果、プランAの選択者は47人、プランBの選択者は26人、Cの「どちらにも行かない」の選択者は27人であった。

Q2について、全体では、

- ⑦17人、④10人、⑪・⑬8人、⑤7人、⑧5人、②・⑥4人、③・⑩3人、①・⑨2人、⑫0人

プランAでは、

- ⑦12人、④8人、⑧5人、②・⑤・⑪・⑬4人、①・⑥2人、③・⑨1人、⑩・⑫0人

プランBでは、

- ⑦5人、⑪・⑬4人、⑤・⑩3人、③・④・⑥2人、⑨1人、①・②・⑧・⑫0人

となり、提案したプランA・Bに対してそれぞれ10万円の評価が多い結果となった。

10-4 提案パッケージ分析による構造分析結果の検証

筆者が考察した野球をする男性が阿南市に求めるもの・施設・動機が正しかったのか検証する為に、プランA・Bを選択した理由をそれぞれプラスの要因、マイナスの要因に分けて

分析した。(図-18・19) プランA・Bを選択したプラスの理由を分析すると、観光パッケージを考える際に、阿南観光に求めているものを分析した通り、野球をする男性は「より解放感」を求めていることが分かった。一方で、阿南観光の動機としては、娯楽追及と緊張解消に大きく偏り、自己拡大と知識増進が求められないという分析であったが、多少ではあるが分散する結果となった。(図-20) これは農業体験という他では簡単には出来ないプランが組み込まれていた為であると推測出来る。松本分類においては、遊ぶ系、名所系、歴史を知る系は求められないということが分かり、これは阿南観光で分析した通りの結果である。また、阿南観光が、ゆっくりする系、自然を満喫する系、美味しいものを食べる系がほぼ等しく上位の3つとなったのに対して、体を動かす系、自然を満喫する系、ゆっくりする系の順で多い結果となった。(図-21) 定番の観光に求めるものとして美味しいものを食べる系が少なかったことから、考えた観光パッケージに組み入れていた「あなん井」の魅力が小さいと推測出来る。体を動かす系が最も多くなった考えられる原因は3つ推測出来た。1つ目は、やはり野球という大きな目的がある為、2つ目は、体を動かすことが好きである為、3つ目は、パッケージに組み込んでいたのが海と農業という体を動かさなければいけない資源であったからという3つの原因である。

プランAの選択理由		プランAの選択者 47人	
プラス		マイナス	
1.海水浴	10	・特になし	8
2.良い	3	・なんとなく	5
3.海水浴+温泉	2	・農業体験が嫌	2
4.家族が楽しめる	2	・消去法	1
5.自由がある	1	・拘束時間が少ない	1
6.時間に余裕があって楽しそう	1		
7.花火	1		
8.きれい	1		
9.面白そう	1		
10.ゆったり出来そう	1		
11.楽しそう	1		
12.魅力的	1		
13.イメージ的に	1		
14.興味がある	1		
15.家族と遊べる	1		
16.試合が多い	1		
17.娘が水泳をやっているから	1		

(図-18 プランAの選択理由)

プランBの選択理由		プランBの選択者 26人	
プラス		マイナス	
1.農業はその場でしか出来ない	2	・海水浴が好きでない	3
2.魅力的	2	・特になし	3
3.農業楽しそう	2	・やむを得ず	1
4.体験できて印象に残る	2	・なんとなく	1
5.船きなさそう	1	・海水浴は徳島でなくても出来るから	1
6.リラックス出来そう	1		
7.一日を有効に使えそう	1		
8.内容が良い	1		
9.地域の特産品と触れ合える	1		
10.農業+温泉	1		
11.温泉	1		
12.野球を楽しみたい	1		
13.子どもに体験させたい	1		

(図-19 プランBの選択理由)

・娯楽追及行動	1・2・6・7・9・11・16・3・10・12
・緊張解消行動	2・8・10・6・10・11
・関係強化行動	3・15・17・13
・自己拡大行動	1・4
・知識増進行動	9

(図-20 旅行者モチベーションの「内容」に当てはめたプランA・Bの選択理由)

・ゆっくりする系	3・6・10・6・10・11	・具体的なまち系	
・美味しいものを食べる系	9	・良い景色系	7・8
・自然を満喫する系	1・3・1・3・9・10・13	・行き当たりばったり系	
・遊ぶ系		・歴史を知る系	
・家族が楽しめる系	4・15・17・13	・観戦系	
・体を動かす系	1・3・16・1・3・4・10・12・13	・お得な買い物系	
・名所系		・交通の便系	

(図-21 松本分類に当てはめたプランA・Bの選択理由)

11. まとめ

11-1 結論

研究成果としては、①阿南市の様な地方工業都市のイメージのある地域に求められる観光動機の解明、②家族を含めた観光動機を分析する為の新たな動機分類の提案、③新たな分類による分析でゆっくりする系を中心とする観光動機が重要であることが明らかになったことの3つである。

阿南市の観光資源の特徴として、4つの分類で分析した結果、野球をする男性が家族と一緒にいく際には、家族観光に比べてより解放感を求め、施設については家族観光と同様で施設の誘引力・資源の潜在的誘引力が共に強いもの、観光動

機については家族観光では娯楽追及・緊張解消が多い結果となったが、関係強化・自己拡大・知識増進も求められている。阿南観光においては、知識増進や関係強化に繋がる資源がない為に娯楽追及・緊張解消に集中するべきであるということが明らかになった。しかし、既存の理論だけでは気遣い欲求・二次的欲求、家族の間接的な動機等の具体的に知りたいたことが分らなかった。そこで動機を具体的に14分類した松本分類を作った。松本分類で見ると、赤文字の5つのところにニーズ（動機）があった。（図-15）以上の4つの結論を掛け合わせた時にプランA・Bの観光パッケージが設計出来た。結果としてはA案の方が支持されていた。プランBではなくプランAが人気となった原因としては、A案を選択したプラスの理由の中でも海水浴という回答が圧倒的に多かったということから、対象者が野球をする男性ということで体を動かすことが好きな方が多かった為、設定していた開催時期が夏の為、海・海水浴という夏の定番に集中したという2つが推測出来る。また、プランを作った段階では、農業に自己拡大・知識増進の要素は無いと考えていたが、旅行者モチベーションの「内容」の結果（図-20）から、その要素があることが分かった。阿南観光においては、自己拡大・知識増進が求められていないことからB案ではなく、A案の人気が高くなったのではないかと推測する。松本分類においては阿南観光に求められている図-15の上位5つ（赤文字）の内、A案ではゆっくりする系、良い景色系を満たす。B案ではゆっくりする系、自然を満喫する系を満たす。一方、阿南観光では求められていなかった体を動かす系がB案では最も多い結果となった。

以上からプランAが支持されたのではないかと推測した。A案の様なプランを10万円程度で提供すると、阿南市の観光は浮上すると考察した。

観光による地域活性化においては、本研究で行った様な観光資源に対するニーズがあるターゲット層を対象に動機分析を行うとともに、その動機の構造に合わせた独自の分類による分析が必要であると考え。その上で、観光設計を行うことで実効性のある観光にとる地域活性化が実現すると考える。阿南市の様な工業都市のイメージの強い地方都市においても既存の経営資源を本研究の様に分析・活用することが考えられる。

11-2 残された課題

野球をする男性が阿南市に求めるもの・動機を分析・考察して提案した観光パッケージにおけるの仮想市場評価から、阿南市には「より解放感」が求められ、動機としては娯楽追及・緊張解消が求められ、具体的な動機として遊ぶ系・名所系・歴史を知る系は求められていないということが分析通りの結果となり、証明出来た。一方で、筆者が考えていなかった潜在的要因が存在した。その為、組み合わせる資源により魅力を感じる方と度合いが様々に変化するはずである。本研究で提案した観光パッケージでは海・農業体験といった資源を組み入れたが、より良いパッケージとする為に、他の美味しい魅力、他のゆっくり出来る魅力といった資源の組み合わせの種類増加・選択の幅を広げることが不可欠である。提案した観光パッケージを基準として頂き、様々な観光資源の組み合わせを試し、一番良いパッケージを今後も追究していく必要がある。

また、本研究では全体的なパッケージに着目した為に、抽象的になってしまったが、もう少し野球に焦点をあてて細かい試合の設定等の「草野球の甲子園」の企画を明確にすると、より魅力を感じて頂けるのではないかと期待する。

12. 参考文献

- [1] 「観光学入門」 岡本伸之 編
- [2] 「消費者行動論体系」 田中洋 著
- [3] 野球のまち推進事業 年次別実施状況
(阿南市役所 産業部 野球のまち推進課)
- [4] スポーツツーリストにおけるデスティネーションイメージに関する研究～スポーツイベントの参加者に着目して～ 柴田恵里香 著
- [5] 野球のまち阿南 公式ホームページ-阿南市
<http://baseball.city.anan.tokushima.jp/top.htm>
- [6] 徳島新聞 2015（平成27）年3月30日・6月19日
- [7] にっぽん日和 徳島県阿南市 観光庁
- [8] 野球をするならあなんへ行こう！！
(阿南市役所 産業部 野球のまち推進課)
- [9] 野球のまち阿南 野球観光ツアー
(阿南市役所 産業部 野球のまち推進課)

- [10] JA アグリあなんスタジアム 阿南市
<http://www.city.anan.tokushima.jp/docs/2012051700035/>
- [11] 阿南市観光協会 きらり・あなん
<http://www.anan-kankou.jp/>
- [12] 阿南市の観光スポットランキング TOP10-じゃらん net
http://www.jalan.net/kankou/cit_362040000/
- [13] GBN 全国草野球大会
<http://www.gbn-sports.com/>
- [14] 全国草野球大会プライドジャパン
<http://pridejapan.net/>
- [15] 地図素材のダウンロード - 日本地図・世界地図・白地図 MAPIO
<http://www.dex.ne.jp/download/map/>